中春別小学校
学 校 便 り

窓

第13号
発行責任者 校長 荒　　雅 樹
令和3年3月24日　発行

令和２年度の修了にあたって

３月に入り柔らかな日差しが降り注ぎ、日中の気温も高くなり、グラウンドの雪がもうほとんど溶けてしまいました。昨年と同じように季節が廻り、もうすぐ春の訪れです。

１９日は、参加者を卒業生・保護者・在校生・教職員、来賓はＰＴＡ会長さんのみに限定し、第９３回卒業式を挙行いたしました。換気、１ｍ間隔の座席、歌唱の中止などの感染拡大防止の措置を講ずるとともに、代表による別れの言葉など式次第の内容を変更し、時間を短縮しながら式を進めました。

３０分程度の時間で行われた式ではありましたが、１０名の卒業生が凛とした表情で式に臨んでおりました。立ち方、座り方、聞き方…その立ち振る舞いから、一人一人の卒業への思いがしっかり伝わってくる心に残る式となりました。４月からは１０名の皆さんが小学校で学んだことを生かして、中学校で活躍することを願っております。

また、出席した在校生の態度も大変立派でした。呼びかけ・合唱などの活動する場面はありませんでしたが、じっと卒業生が証書を受け取る姿や代表の言葉を聴く真剣な眼差しから、この１年間の成長を感じるとともに、一人一人の６年生との関わりの深さを感じました。６年生の姿を直に見ることによって、ある子は「来年は自分があの場に立つ。」ある子は、「あんな６年生なりたい。」と思いを巡らせながら座っていたように感じました。教室での学習も大事ですが、感じる心・思う心を育てることも大事にしたいと思っています。その体験をさせたくて在校生に参加してもらいました。今後の子どもたちの活動や成長へとつながります。

ある臨床心理士は「心は体験したことの集まりである。」と言っていました。「例えば小さいときに怖い夢を見て苦しかった。その時お母さんに手を握ってもらったら心が落ち着いた。」このような経験を多くすると思いやる心が作られていくと言っていました。豊かな経験をさせ、それを振り返り体に刻んでいくことで心が作られていくなら、私たちは子どもたちにどんな体験をさせることが教育的であるのかを考えなければなりません。結果よりも過程を大事にしていきたいものです。

卒業式の次の日、１年生は６年生がいなくても掃除をしっかりと頑張ってやっていました。１年生の中には６年生の教え、一緒に掃除したことがちゃんと残っていたということです。６年生ありがとう。

本日は、修了式でした。令和２年度の教育活動は本日で終了いたしました。思えば、本当にいろんなことのあった令和２年度でした。長期の臨時休校、長期休業の短縮、行事等の変更や縮小…。新しい生活様式の徹底とともに、学年でしっかり身に付ける学びや子どものわくわくも同時に大事にしながら工夫しながら歩んだ一年間でした。楽しみにしていたけどできなかったこともあったことでしょう。その中でも子どもたちは工夫して活動する姿がありました。規律ある落ち着いた学習環境を自ら作り出し、学習している姿がありました。本日の修了式では１年間で立派に成長した姿を見ることができました。

保護者の皆様には１年間いろいろご理解いただき、その面から支えていただいたおかげでここまでやってくることができました。本当にありがとうございました。

春は別れ、そして出会いの季節です。このたびの人事異動により数名の職員が退職、転出いたしますが、４月には新しい職員が加わります。また、子ども達の学年も１つずつ上がり、ピカピカの新１年生も入学してきます。

学校が始まりましたら、物事を自分ごととしてとらえ、自ら学び自分たちで作っていく…。そういう力を子どもたちが更に発揮できるように取り組んでいきたいと考えております。職員一丸となって子ども達の教育に取り組んでいきますので、皆様の変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（３月２４日　校長　荒　雅樹）